

授業科目等の概要

(ファッショント専門課程 ファッショント基礎科) 平成29年度

| 分類 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 1・前期 | 授業時数 60 | 単位数 2 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----------|------|------|------------------|--|-----------------|------------|----------|------|----|-----------------|----|---|----|----|---------|
| | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 内・外 | 校 | 校 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 服装造形 論IA | ・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察) ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 | 1・前期 | 60 | 2 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| ○ | | | 服装造形 デザインIA | ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 | 1・前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 パターンメーキングIA | ・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング) 1 基礎I(一般知識・縫い方の基礎) 基礎縫いAミシン縫い・B手縫い | 1・前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 ソーイングIA | 2 体型研究 身頃原型・スカート原型(1/4・実物作図)・トワル製作・試着補正・レポート 3 スカートI デザイン・パターン・実物製作・レポート | 1・前期 | 90 | 3 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 論IB | 4 シャツブラウスI デザイン・パターン・実物製作・レポート 6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート | 1・後期 | 60 | 2 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 デザインIB | 7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8 スカートII デザイン・パターン・実物製作・レポート | 1・後期 | 90 | 3 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 パターンメーキングIB | 9 ジャケットI デザイン・パターン・実物製作・レポート 10 ワンピースドレスI デザイン・パターン・実物製作・レポート | 1・後期 | 90 | 3 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服装造形 ソーイングIB | 11 パンツI デザイン・パターン・実物製作・レポート 12 ドレーピング基礎(文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション(アームホールダーツ) | 1・後期 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 量産技術概論・実習 | アパレル製品の生産について、関心を持たせることを目標とする。前期は、量産的手法に基づいたシャツの縫製実習を短期集中で行い、工業用ミシン、アイロンを中心とした生産機器の安全な使用方法の基礎を習得する。後期は講義において、実習での作業内容と通常授業における一品作りとの違いについて認識させる。 | 1・通年 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | ○ | ○ | | |

授業科目等の概要

(ファッショント専門課程 ファッショント基礎科) 平成29年度

| 分類 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 1・前期 | 授業単位数 30 | 授業時間数 1 | 授業方法 | | | 場所 校内 | 教員 専任 | 教員 兼任 | 企業等との連携 |
|----------|------|------|----------------|--|-----------------|-------------|------------|------|----|----------|----------|----------|----------|---------|
| | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | | |
| ○ | | | 自由研究 IA | ・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。 | 1・前期 | 30 | 1 | | | ○ ○ ○ | | | | |
| ○ | | | 自由研究 IB | ・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。 | 1・後期 | 30 | 1 | | | ○ ○ ○ | | | | |
| ○ | | | ファッショントビジネス概論 | ・ファッショントビジネスの基礎知識の理解 ・ファッショント産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応 | 1・通年 | 30 | 1 | ○ | | | ○ ○ ○ | | | |
| ○ | | | ファッショントデザイン画 I | ファッショントデザイン画は、人体のプロポーションと衣服のバランスを把握し、デザインの構造を明確に描く事が出来るよう基礎技法から幅広い画材研究まで習得し、各自のデザインワークにつなげていく事を目標とする。 | 1・通年 | 60 | 2 | | | ○ ○ ○ | | | | |
| ○ | | | クロッキー | 様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。 | 1・通年 | 30 | 1 | | | ○ ○ ○ ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 西洋服装史 | 古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッショントが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。 | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | | | ○ ○ ○ ○ | | | |

授業科目等の概要

(ファッショント専門課程 ファッショント基礎科) 平成29年度

| 分類 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 1・通年 | 授業時数 60 | 単位数 2 | 授業方法 | | | 教員 専任 | 企業等との連携 ○ |
|----------|------|------|-----------|---|-----------------|------------|----------|------|----|----------|----------|--------------|
| | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | |
| ○ | | | 服飾デザイン論 I | 教育目標：服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定：色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。 | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | アパレル素材論 I | アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である纖維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。 | 1・通年 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | 服飾手芸 I | 服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。 | 1・通年 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | 服装解剖学 I | 解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。 | 1・後期 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | ○ |
| ○ | | | キャリア開発 I | ・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。 | 1・通年 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | | 特別講義 I | ・ファッショント専門課程の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。 | 1・通年 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ |

(4/4)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 平成29年度

| 分類 | 必修 選択必修 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|--------------------|-----------|---|--------------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | 校外研修 I | ・都会生活から離れた「山荘」における団体生活の体験。 ・野外活動・体育活動など諸活動を通して指導力・協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める。 | 1 ・ 前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | ○ | コラボレーションa | ・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動(コンテスト活動など)への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。 | 1 ・ 後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | | | |

授業科目等の概要

(ファッショント工科専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度

| 分類 | 必修 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
|----|------------|------|--------------------|--|---------|------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | ニット概論 | 使用素材や作成方法など、ニット全般にわたる商品と技術について、基礎的な知識を学習する。将来、デザイナーとして必要な、商品企画や物づくりのための、幅広く体系的な見識と技量の養成を目指す。具体的には、主として、ニットの代表的な商品である成型セーターの工業品としての「物づくり」に必要な、各段階での技術的知識及び管理方法とそのいろいろな実践的な応用方法を習得させる各論重視の教授を行う。 | 2・通年 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | ニットアパレル 論 I A | ニットに関する専門職に従事することを想定して、ニット産業界の構造からニット製品の基本的な知識までを総合的に学ぶ。ニット独自の素材の糸や編地別の表現や製作上の特徴を理解したうえで、それらを有効に生かしたデザインを発想し表現する。また個性やオリジナリティなどの表現を大切にし、ニット素材による衣服作りを「デザインと製品化」の視点から教育する。2年次は編み地の特質を生かした物づくりのプロセスを習得する基礎段階とする。 | 2・前期 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 デザイン I A | | 2・前期 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 実技 I A | | 2・前期 | 150 | 5 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル 論 I B | | 2・後期 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 デザイン I B | | 2・後期 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 実技 I B | | 2・後期 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットコンピュータシステム演習基礎 | 工業用編機を用いたニット製品の生産システムを理解するため、横編みの編成原理と編み立て方法を学ぶ。デザインシステムとコンピュータ編機を使用して編地を作製し、3年次の工業ニット作品制作の基礎となる知識を養う。 | 2・後期 | 30 | 1 | | ○ | ○ | | ○ | | |

授業科目等の概要

(ファッショント工科専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度

| 分類 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 2・前期 | 授業時数 90 | 単位数 3 | 授業方法 | | | 場所 校内 | 教員 専任 | 企業等との連携 ○ |
|----------|------|------|---------------|--|-----------------|------------|----------|------|----|----------|----------|----------|--------------|
| | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | |
| ○ | | | ドレーピング・服装造形ⅠA | 立体裁断を通して服作りの基本理論と技術をニットとの関連性を持たせて創造表現出来るように指導する。 | 2・前期 | 90 | 3 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | ドレーピング・服装造形ⅠB | 前期ⅠAで学んだことを基本として、その応用スーツを製作させ、ニットの各所に利用できるように指導する。 | 2・後期 | 90 | 3 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | ファッショントデザイン画Ⅱ | ファッショントデザイン画の基礎から応用技術を習得し、ニットデザインにおける独自の画風を見つける。 | 2・通年 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | アパレル染色演習Ⅰ | 染色に関する基礎的な知識と技法を、各種の実験・実習を通して得ることにより、アパレルに応用展開できる能力を養う。さらに染色、加工の観点からテキスタイルについての理解を深めることを目標とする。 | 2・前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | 色彩計画Ⅰ | 1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッショントデザイン、コーディネーションにおいて計画的に行なう色彩活用の技術や考え方を学習する。 | 2・後期 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | 服飾手芸Ⅱ | 作品制作の上ではさまざまなレース技法が欠かせない。鉤針では表現できない種類のレースを学び、創造力を養いニット作品に応用していく。レースの基礎知識を身につける。 | 2・前期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | グラフィックワーク基礎 | 幅広い分野での代表的なグラフィックスソフトの基本的な操作をマスターしてコミュニケーションの手段としてプレゼン用の資料と個人デザイン能力の向上を目指す。 ・CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術 ・ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作 ・ペイント系ソフト/Photoshopの基本操作 | 2・通年 | 60 | 2 | | | ○ | ○ | ○ | |
| ○ | | | キャリア開発Ⅱ | 学生が就職をするために必要な「就職力」を講義+実習をとおして身に付けさせる。職業観、勤労観について学習した上で基本的なビジネスマナーを学びコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を目指す。 | 2・後期 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |

(3/6)

授業科目等の概要

(ファッショントク専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度

授業科目等の概要

(ファッショント専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度

| 分類 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 3・通年 | 授業時数 30 | 単位数 1 | 授業方法 | | | 場所 校内 | 教員 専任 | 教員 兼任 | 企業等との連携 |
|----------|------|------|------------------|---|-----------------|------------|----------|------|----|----------|----------|----------|----------|---------|
| | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | | |
| ○ | | | ニット生産概論 | 将来、ニット衣料分野のデザイナー、MDなどとして有為な人材の育成を目指す。具体的には、2年次に習得したニット概論を総括し、「商品企画から最終製品まで」の一巡を通じ、技術及び品質管理、原価管理など工業生産に係わる事項を習得させ、ニット製品の工業生産現場で起る諸問題の解決能力の養成を行う。ニットの生産の現場であるニット工場見学を行い生産の工程の総括とする。 | 3・通年 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル論ⅡA | アパレル業界でのニットウェア専門職に従事することを想定し、ニット造形の基礎理論を基に、製品化のための幅広い知識と技術を学ぶ。 | 3・前期 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 デザインⅡA | ニットの各種素材、編地などの特性を生かし、商品としての目的や条件にあったデザインと素材選定、柄選定、縫合方法の選定などを意識する。さらに着装時のトータルコーディネートまで考慮した総合的なクリエイティビティを高める。 | 3・前期 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 実技ⅡA | アパレル業界でのニットウェア専門職に従事することを想定し、実際の工業製品と同じ機器を使用した物づくりの知識と技術を学ぶ。デザイン発想としてハンドニットのテクニックも学び、工業製品へと落としこむプロセスの一つとする。 | 3・前期 | 120 | 4 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル論ⅡB | アパレル業界でのニットウェア専門職に従事することを想定し、ニット造形の基礎理論を基に、製品化のための幅広い知識と技術を学ぶ。 | 3・後期 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 デザインⅡB | ニットの各種素材、編地などの特性を生かし、商品としての目的や条件にあったデザインと素材選定、柄選定、縫合方法の選定などを意識する。さらに着装時のトータルコーディネートまで考慮した総合的なクリエイティビティを高める。 | 3・後期 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニットアパレル演習 実技ⅡB | 「ニットアパレル演習実技ⅡA」を基に、ハンドニットの応用技術とコンピューターニットの応用発展。クリエイティブな分野から工業製品の量産まで、ニットの幅広い技術の習得。 | 3・後期 | 150 | 5 | | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | ニット造形演習 | テーマに基づいた編地提案を通じて発想力を育てる。今後の作品製作に生かせる様、ニットのテクニックを応用発展させる。 | 3・前期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | ○ | | |

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度

| 分類 | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | 教員 | 企業等との連携 |
|----|----|------|------|-----------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|---------|
| | | | | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | | | |
| ○ | | | | ニットコンピュータシステム演習 | 工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステム、特殊機器等の使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、ニットアパレルの総合的理解を深める。 | 3・通年 | 180 | 6 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | | ドレーピングⅡ | 2年次で学んだ事を基礎とし、デザイン画から立体裁断で表現できるようにする。伸縮素材との関連性や違いを認識させながら、創作表現できるようにする。 | 3・通年 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | | ファッションデザイン画Ⅲ | 幅広いデザインセンスと個性を兼ね備えたファッションデザイン画を描くことを目標に、多種画材の彩色テクニックを習得し表現力を強化する。 | 3・通年 | 60 | 2 | | ○ | ○ | ○ | | |
| ○ | | | | ファッションマーケティング | ファッションマーケティングの講義を通じて世の中(社会)の仕組みを学び、どのような社会人になるかを考える一つの機会とし、「新ブランドの提案」作業を通じて、社会人として必要な「チームワーク」(協調性・積極性・責任性)をグループディスカッションで学び、併せて「コミュニケーション力」を身につける。新ブランド、新商品開発について、企業で実施される流れと同様の作業を行い、実際に必要となる作業行程の内容を理解し、技術を修得する。 | 3・通年 | 60 | 2 | △ | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| ○ | | | | ニットマーチャンダイジング | 【前期】 企業同様の商品企画作成を目標に即戦力になるニットデザイナーを育成し、商品企画作成、商品生産、商品販売までの流れを習得する。 【後期】 企業同様の商品企画・作成を目標に即戦力になるニットデザイナーを育成し、商品企画・構成、製造工程(横編工場、丸編工場)、品質管理の流れを習得する。 | 3・通年 | 90 | 3 | ○ | | | ○ | | ○ |
| ○ | | | | デザイン文化 | デザインの原点ともいえる西洋における時代様式の美、モダンアート表現、日本の伝統美などあらゆる分野から美とその象徴性を学ぶ。各自が知識を深めるとともに、個性ある創造性が養われることを目標とする。 | 3・後期 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ |
| | ○ | ○ | ○ | コラボレーションc | 科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する。 | 3・通年 | 30 | 1 | | | ○ | ○ | ○ | |

(6/6)

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ニットデザイン科) 平成29年度